

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年7月15日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972600245		
法人名	社会福祉法人 黒潮福祉会		
事業所名	グループホーム 優夏		
所在地	高知県幡多郡黒潮町入野3512-2		
自己評価作成日	平成23年4月25日	評価結果 市町村受理日	平成23年7月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは、理念でもある「生まれ育った地域の中で、和やかな生活」と「いつも笑顔でゆったりと楽しく家庭的な雰囲気づくり」に沿ったケアを実践しており、利用者に寄り添い家族同様の関係や地域との関係をより深めていくことを目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3972600245&amp;SCD=320&amp;PGD=39">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3972600245&amp;SCD=320&amp;PGD=39</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年6月29日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は町の家並みと田園地帯との間にあり、明るく温暖な環境に立地している。管理者と職員は利用者一人ひとりの利用者向き合い、それぞれの心身の状態や思いを汲みあげながら個別支援に取り組むとともに、常に職員同士で話し合い、利用者本位のサービスのあり方について振り返っている。利用者も経験等を活かして野菜づくりの話や午前、午後のお茶の時間や食事後に気の合う仲間同士での会話を楽しんでいる。運営推進会議には地域の各方面からの協力があり、災害対策や地域との交流などについて意見や提案があり、運営に反映させている。また、法人事務局(特別養護老人ホーム内)との連携や法人の母体となる協力病院との医療連携体制が確立しており、利用者や家族の安心と信頼を得ている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名： 優夏

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で話し合い、運営推進会議で助言も得ながら地域密着サービスとしての理念を作成している。機会あるごとに確認しながら実践につなげている。	地域の中で和やかに暮らすことを目指した理念を作成している。職員は毎日その日の目標を立てて支援に取り組むとともに、管理者は気になることがあればその都度職員と個別に話し合っている。	理念に基づく基本方針や職員心得なども掲示しているが、年度初めの職員会で取り上げるなど、意識づけに活用することを期待したい。
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の班の一員として回覧板を回したり、班の行事に参加している。また、地域の清掃活動や町主催の避難訓練に参加するなど、地域と交流している。	食事懇談や敬老会などの事業所の行事を通して地域住民と交流したり、地域住民から果物や野菜のお裾分けがある。また、町内会の清掃活動や避難訓練に参加するとともに、地域の消防団や老人クラブ、婦人会等との関係を築いている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅の認知症の方の家族の相談に応じている。また、ヘルパー養成の実習受け入れ等の用意もしている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々の協力で運営推進会議の委員が増えたことで、これまでと違った目線での意見や助言を得てサービスの向上に活かしている。また、地域との協力体制の強化につながっている。	地域の老人クラブや婦人会などの各分野からの会議への参画があり、運営状況等に関して意見交換したり、運営についての提案や協力を得る機会になるなど、会議の機能を十分に活かしている。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月の1回以上、役場に出向き現状の報告をしている。課題等への対応について担当者から指導、助言を得ている。	毎月の現況報告や入居待機者の情報交換等を通して担当職員との関係を築くとともに、運営推進会議に参加してもらい、事業所の実情を報告したり、運営やケアについて相談している。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止事項だけでなく、言葉や無意識による対応も含め、機会あるごとに確認している。日中は鍵をかけないようにし、帰宅願望などの落ち着きがない時は、散策やドライブなどで気分転換や納得してもらうようにしている。	身体拘束に関する研修内容を職員に周知するとともに、日頃から言葉による行動抑制について職員同士で話し合い、言葉遣いに注意するようにしている。外出傾向のある利用者には寄り添い、声かけや見守りなどしながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会にも積極的に参加し、職員会など機会ある度に虐待について話し合い、防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度の活用事例はないが、今後、研修会への参加や勉強会を通して学習していく。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者、家族の意向や不安、疑問等を聞き、契約内容等について十分に説明し、理解と納得を得るようにしている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時にはゆっくり話し合える機会を設け、要望や意見等について常に問いかけている。また、利用者や家族から意見等を出しやすいように、地域の方に苦情相談を委嘱している。	年に1回、行事の後に家族会を開催している。家族のみで話し合う機会は参加者も少なく、家族の申し入れにより設けていない。相談員の依頼もしているが特に苦情等はなく、面会時には必ず話し合いの機会をつくり、意見等を聞くようにしている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会などの機会に個々の意見を求めている。職員より意見や提案があれば話し合い、改善に向けて取り組むようにしている。	職員会には施設長も出席し、昼食後のミーティングの機会などを捉えて職員の意見や提案を聞いている。ガスコンロを電磁調理器(IH)に取り換えるなど、運営に反映させている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自の目標達成状況や勤務状況等を評価したり、業務の見直しなど、より良い環境の整備に配慮している。また、定期的に健康診断や腰痛検診を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間のホーム内外の研修計画を作成し、計画的に研修に参加するようにしている。また、日頃から業務の中で指導や育成を行っている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の宅老所、グループホーム連絡会に加入し、情報交換したり、関連の事業者と意見交換や勉強会を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話をじっくり傾聴し、その思いや不安を汲み取り、職員との信頼関係を築くように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に家族の方と十分に話し合い、困っていること、不安なことなど傾聴し、ホームとしてどのような対応ができるか説明し、信頼関係を築いている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護サービスの利用について戸惑いなどがある場合には、段階的なサービスの利用などを提案したり、困った時には何時でも相談を受けるなど柔軟に対応している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできることに積極的に取り組んでもらい、その経験等から職員も教えてもらいながら支え合っていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、毎月の便りなどで、利用者の暮らし振りを伝え、行事等に参加してもらうなど共に支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の来訪を歓迎しており、ゆっくり面談できるような場所の提供を行っている。また、利用者の心理面への影響など考慮しながら自宅周辺に出かけている。	友人、知人の面会があり、利用者共通の知り合いの関係もあり一緒に交流している。利用者の希望に沿ってドライブがてらふるさと訪問などもしているが、利用者の反応など観察しながら柔軟に対応している。また、家族の協力も得て墓参りをするなど、これまでの関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士で語らう時間や場所を設けたり、全員で楽しく歓談したりできる場面をつくっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院や施設に移った場合も、面会に行ったり関係者から情報を得たりしている。また、家族の相談等にも応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室やひだまりコーナーなどで、ゆっくり話を聞く時間を設け、困っていることややりたい事等を尋ねたり、世間話の中からも思いを汲み取るようにしている。	職員担当制で6カ月毎にアセスメントを行い、利用者の現状を共有しながら、集団での話し合いや個別にゆっくり話を聞くなどして、利用者の意向や希望を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族の面会時、日々の暮らし振りから情報を得たり、利用者との会話の中から生活歴等の把握をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活リズムを把握し、できることや興味のあることに注目し、残存能力の把握に努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ができるだけ自立した生活が送られるよう、日々の記録や職員の意見を踏まえカンファレンスを行い、利用者一人ひとりに応じた介護計画を作成している。	利用者、家族の意向等をできるだけ出してもらいながら職員の気づき等を共有し、計画担当者が調整しながら介護計画に反映させている。計画は3カ月毎に見直し、職員担当制によるモニタリングは6カ月毎に行っている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランチェック表を作成したり、日々の気づきや状態の変化等を記録し、勤務前に確認している。また、介護計画の見直し、評価に活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況に応じて通院介助をしたり、面会者の送迎支援など、柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防団の定期的な訪問を受けたり、地域の健康づくり推進委員等の協力を得て、保健師の指導に依るミニデイサービスに参加するなど、安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する病院で受診している。受診時には、家族、医師との情報交換をしている。また、歯科医の往診も受けている。	入居時に、利用者、家族の判断で協力病院をかかりつけ医にしている。通院介助は管理者の対応を基本に、状況に応じて家族も同行するようにしている。受診結果については、職員間では個別記録で共有するとともに、必要に応じて家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1日看護師の勤務があり、1週間分のバイタルチェック表や健康チェック表で健康相談や助言をもらっている。発熱、体調不良の時には、電話で指示を受けている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、退院見込みの時期など医療関係者と情報交換を行っている。また、職員が時々見舞いに行き、退院後も安心して生活できるよう馴染の関係を維持している。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、利用者、家族の希望等を尊重し、ホームとしてできる支援等について十分に話し合い、医療機関とも連携しながら支援していくようにしている。	重度化や看取りの対応について、入居時に利用者、家族に説明し、同意を得ている。これまで看取りの事例はないが、協力病院との医療連携体制が確立している。事業所では看取り対応について課題意識を持ち、学習会などを計画している。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急手当や蘇生術の研修を受けている。また、ホーム内での学習会など充実していく必要がある。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署から、避難訓練や火災時の総合訓練の指導を受けている。ホームの防災訓練への参加につて、地区会や運営推進委員のメンバー、地域の消防団に協力を呼びかけている。	事業所の防災訓練を実施し、地域住民に参加を呼びかけているが参加には至っていない。一方、町内会の避難訓練へ参加したり、地域の消防団員による避難経路等の確認が行われている。また、東日本大震災時の大津波警報の際には、法人の特別養護老人ホームに避難した実績がある。非常用の食料等の準備もしている。	災害時には地域の協力が欠かせないことから、引き続き運営推進会議を通して地域住民に事業所の防災訓練への参加を呼びかけるとともに、地域の消防団員の支援の動きなども踏まえて地域ぐるみで防災対策に取り組むことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や記録の際に個人の名前を出さないように注意している。失禁した時や何か失敗した時にはさりげなく声かけするなどの対応をしている。	利用者の尊厳保持に努め、常に職員の言葉遣いのあり方について話し合い、気になる対応があればその都度注意し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の食べたい物、やりたいことなど、自分から意見を行ったり、決定してもらうようにしている。また、職員から問いかけ選択してもらう場面づくりをしている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床や食事の時間など、その時の状態や気持ちを尊重し、できる限り一人ひとりのペースに沿って支援している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装や好みの服を職員と会話をしながら一緒に選ぶなど、利用者一人ひとりの個性に応じた身だしなみやおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内の家庭菜園で採れた野菜やイチジク、ブラックベリー、やまももなどを一緒に収穫し、食事の際の話題にもなり、楽しく和やかな食事の時間につなげている。	利用者の嗜好を把握しながら献立をつくり、地域の食材などを活用し、利用者は調理の下ごしらえや食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。食事のあいさつを利用者が輪番で行い、それぞれ自分のペースで静かに食事を摂り、食後は和やかに談笑している。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回、管理栄養士による指導を受けている。食事の摂取量をチェックし、調理や盛り付けの工夫や栄養バランスの良い食事で偏食を防いでいる。また、水分の摂取量を把握し、外出や入浴後などに水分を補給している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを声かけし、個々の能力に応じて介助したり、見守り支援をしている。また、義場は週に1回、洗浄剤で洗浄している。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自らトイレに行くことが少ない利用者には、排泄サインを見逃さないようにし、随時声かけをし促している。また、失敗しても傷つけない声かけに配慮している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄するよう声かけ支援をしている。概ね排泄の自立はできているが、状況に応じてトイレ使用時に介助したり、紙パンツやパッドの併用、夜間のみ排泄用品やポータブルトイレを使用するなど、個々に応じて支援している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前の水分補給や野菜を多く取り入れた食事の提供したり、散策や体操など運動を促し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後1時に入浴担当職員が出勤し、夜間入浴も含め何時でも入浴できるようにしている。今のところ夜間入浴や拒否の事例はないが、職員のチームプレーで対応するようにしている。	利用者の希望に沿って、13時～17時頃の時間帯に概ね2日に1回のペースで入浴している。現在、入浴を強く拒否する事例はなく、体調等に応じて柔軟に対応している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転とならないように日中の活動を援助したり、夕方から就寝に向けてゆっくり安らいで過ごしてもらうよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能をファイルし、各個人の薬入れの中にも説明書を入れて全職員が把握できるようにしている。また、薬に変更があった場合は申し送り等で全職員に周知し、症状等の変化があれば記録している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の経験や知恵を発揮できる場面づくりを行い、日々の暮らしの中で、役割を担ってもらい、喜びや楽しみごとにつながるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じてドライブや散歩、買物、花見など、季節を肌で感じることができる外出支援をしている。車酔いされる方、遠出の好きな方、それぞれに合わせて柔軟に支援している。	利用者の希望に沿って日常的に散歩できるようにしているが、気候や体調等をみながら柔軟に対応し、できるだけ外気に触れる機会を設けている。買物希望のある利用者にも個別に対応している。また、気分転換のためドライブしたり、季節の花見や行楽などに出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の意向で、少額の小遣いを保持したり、ホームで預かり必要時に手渡しするようにしている。また、希望により買物を代行したり、本人が支払うなど柔軟に支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、利用者本人が電話したり、職員が介助して家族に電話するなど支援している。また、手紙や葉書を代読支援もしている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、お正月からクリスマスまでの季節を感じられる飾り付けを利用者と一緒に行い、それぞれの季節の行事を楽しんでもらうようにしている。また、季節の花を活けるなどして心が和むように工夫している。	廊下も広くゆったりしており、利用者が一人で過ごしたり少人数で談話できるスペースもある。食堂兼居間は動線も考慮して食卓やソファを配置し、座敷もあり、利用者は思い通りに過ごしている。また、壁面には利用者と職員が共同して紫陽花の飾り付けをしたり、フローアーには鉢花を置くなど、季節感の採り入れに配慮している。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひだまりコーナーに長椅子を置き、気の合う仲間同士で気ままに過ごしてもらうよう工夫している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた物など持ってきてもらうよう説明し、仏壇やテレビ、筆筒など、利用者の好みの物が持ち込まれている。	居室はフローアーでベッドが備え付けられているが、利用者の身体状況等に応じて畳を敷いている例もある。利用者は馴染みのダンスや姿見、テレビや仏壇を置いたり、家族写真やぬり絵の作品を貼るなどして、その人らしい居室づくりをしている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態等の変化で生活環境等に課題等が出てきた場合は、全職員で話し合い、利用者が安全で自立した暮らしができるよう改善に向けて工夫している。		

ユニット名:

優夏

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				